

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

認知症の「タネ」は若いうちからまかれている

1. 先日、世界四大医学誌のひとつ「ランセット」に認知症の発症と関連する 9 リスク因子が発表された。まず、18 歳未満の「小児期」に改善すべき認知症リスクとして①教育歴があげられた。15 歳未満で教育歴が途絶えてしまうと、認知機能の予備能が低下し認知症の発症リスクが上昇するようだ。単なる学歴ではなく若いうちに脳をフル回転させることが重要という意味が強い。
2. 45～65 歳の「中年期」は、おなじみの②高血圧、③肥満に加えて、④難聴があげられている。④難聴については、軽症でも長い間に認知症リスクが上昇すると常々指摘されていた。耳からの情報が減少し、認知機能が低下すると考えられる。今回あがった 9 因子のうちで最も影響が大きい。改善策としては補聴器の装着などが考えられるが、「年寄りくさい」と敬遠されがち。デザインの全面的な見直しを業界にお願いしたいところだ。
3. 65 歳以上では、⑤喫煙、⑥抑うつ、⑦運動不足、⑧社会的孤立、⑨糖尿病が大きく影響してくる。⑤喫煙と⑦運動不足は、個人の自覚と努力が必要だ。⑥抑うつ、⑧社会的孤立は、定年退職後の男性が陥りやすい。中年のうちに「職域」以外の領域で「社会的なつながり」をつくっておくといい。認知症の症状が表に出るのは、65 歳以降だ。しかし「タネ」は、はるか以前にまかれている。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2017 年 8 月 26 日号)

人事・労務について

王道回帰 (全員を正社員)

1. カード大手のクレディセゾンがコスト増を覚悟で全従業員を正社員化する。AI (人工知能) やフィンテックがビジネスモデルを揺さぶる中、人材への投資が成長への道と判断した。多くの企業が、直面する労働契約法の「2018 年問題」や、「非正規との格差問題」への解決策として注目される。社員全員が挑戦を続けられる仕組みを作り、中期経営計画達成のための原動力としたいとの思いからだ。
2. 正社員主体の日本型雇用システムは、バブル崩壊後に一転。非正規雇用が拡大し、格差拡大などの弊害が鮮明になった。今、付加価値を生む人材を社内で育てられるかが改めて問われている。奇策にも見えるクレディセゾンの挑戦は、実は本来の日本的雇用の「王道回帰」なのである。

(参考:「日経ビジネス」: 2017 年 8 月 28 日号)

経営者のための理念・哲学

孝行や思いやりなどが失われている

村上 太胤 (法相宗大本山薬師寺管主)

1. いまの世相を見ますと、三世代が一緒に暮らさない、両親を大切にしない、先生を敬わない、お墓にも参らない、お葬式もしないというように仏法からどんどん遠のいていくばかりです。孝行や思いやりなど人生に必要な重石が失われていく中で、仏法を知らせる僧侶の役割が大きくなってきていることを痛感しています。
2. 例えば、若い人に尊敬する人を持つと言ったところで、おそらく持てないでしょう。実際にそういう出会いをして心から納得するという経験をしていないからです。スマホをいくら見てもそのことは分かりません。ですから、ただ頭で分かったつもりになるのではなく、何事も自分の体で経験を一つずつ積んでいくことは、特にこれからの人たちが人生で大成していく上で、とても大切になっていくように思います。

(参考:「致知」2017 年 10 月号)

古典に学ぶ

戦争上手で処世が巧み (家康公)

(解説) 我が国でも賢人豪傑はたくさんいる。そのうちでも最も戦争が上手であり、処世の道が巧みであったのは徳川家康公である。処世の道が巧みなればこそ、多くの英雄豪傑を威服して十五代の覇業を開くをえたので、二百余年間人々が安眠高枕することのできたのは実に偉とすべきである。それゆえ処世の巧みな家康公であるから様々の訓言を遺されている。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)